

# 令和7年度 第1回 鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）推進委員会

日時：令和7年8月29日（金）14:00～16:00

場所：鶴見区役所1階 予防接種室

推進委員：小林委員長、八森副委員長、

芦沢委員、石井委員、板山委員、祝出委員、押山委員、小林（広）委員、清水委員、  
日向委員、平森委員、福井委員、松坂委員、宮野委員  
(欠席：斎藤委員、巴委員)

事務局：【区役所】

福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、福祉保健課長、  
高齢・障害支援課長、こども家庭支援課長、学校連携・こども担当課長、  
生活支援課長、区政推進課地域力推進担当課長、区政推進課地域力推進担当係長、  
福祉保健課事業企画担当係長、事業企画担当職員

【区社協】

鶴見区社会福祉協議会会长、事務局長、事務局次長、事務局職員

## 1 開会（進行：福祉保健課事業企画担当係長）

委員の退任に伴い、新たに委員になっていただいた1名をご紹介した。

退任：増子委員

新任：芦沢委員

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認。

## 2 委員長あいさつ

日ごろから鶴見区の各地域において様々な活動に取り組んでいると思う。自治会町内会を代表してお礼申し上げます。本日は新たな計画について、忌憚ないご意見をいただき、活発な会議になることを期待しております。短い時間でありますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 3 区長あいさつ 代読：岩田センター長

委員の皆さんにおかれでは、第4期鶴見・あいねっと推進、そして第5期計画策定に多大なご尽力いただき感謝します。昨年度のフォーラムでは、鶴見中央地区に発表いただきました。人と人とのつながりが出会い、つながっていくことで若い世代が成長し、今まで活動を支えてきた方に好循環をもたらしていると感じました。

第4期鶴見・あいねっとの最終年度を迎える今年度は、いよいよ第5期計画の策定を行う重要な年となります。

本日ご審議いただく第5期計画の素案については、これまでに開催した推進委員会から、策定検討プロジェクトに至るまでにいただいた様々なご意見を踏まえて作成したものとなります。

昨年度も申し上げましたが、皆さまの普段からの地域における活動のひとつひとつが“あいねっと”であり、みなさまの日々のご活躍を心強く思っております。

引き続き忌憚のないご意見をいただきながら、計画全体を通して、皆さまの思いがうまく区民の方々に伝わり、共感いただける計画にしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

#### 4 区社会福祉協議会会長あいさつ

日ごろよりあいねっと推進にご尽力いただき感謝申し上げます。第4期計画はコロナの中、様々な創意工夫をし、活動していただき、感謝いたします。第5期計画に向けて、忌憚のないご意見、アイデアをお聞かせいただきたいと考えています。区社協もみなさまと一緒に進めてまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。

#### 5 事務局職員紹介

福祉保健センター 岩田センター長、福祉保健課 高橋課長、  
高齢・障害支援課 宇佐美課長、こども家庭支援課学校連携・こども担当 真野課長、  
区制推進課地域力推進担当 児玉課長、福祉保健課事業企画担当 谷口職員、加藤職員、  
鶴見区社会福祉協議会事務局次長 大川次長

#### 6 議事（進行：八森副委員長）

（八森副委員長）本日の議題の確認。

##### （1）鶴見・あいねっと推進 令和7年度スケジュール（案）

（説明：事業企画担当係長）（資料3）

資料3（鶴見・あいねっと推進令和7年度スケジュール（案））を基に次のとおり説明。

推進委員会、プロジェクトについては5期計画に向けた検討・議論が中心となります。本日は6月のプロジェクトでいただいたご意見を踏まえて修正した素案の確認をお願いしたいと思います。第2回策定検討プロジェクト（12月12日）は区民意見募集の結果について確認いただくとともに、ご意見をいただく予定です。第2回推進委員会（1月30日）は第5期計画の完成となります。鶴見・あいねっと推進フォーラムは3月20日（金・祝）となります。

広報・啓発については広報よこはま3月号に鶴見・あいねっと推進フォーラムについて掲載します。

地区別支援チーム、地区別支援チームへの活動支援については地域支援体制が今年度より変更。従来の地区担当責任職を地区リーダーに、福祉保健センターだけでなく総務部からも係長級をサブリーダーとして配置しました。例年同様、新任者に向けては研修を行いました。

ネットワーク、地域福祉の推進については区社協の取組となります。理事会、評議員会や区社協ホームページ上でのあいねっと活動紹介を予定しております。

## (2) 第20回（令和7年度）鶴見・あいねっと推進フォーラムについて

（説明：区社協事務局次長）（資料4）

資料4（令和7年度鶴見・あいねっと推進フォーラム概要（案））を基に次のとおり説明。

1年間の地域活動の集大成、あいねっとの普及啓発として開催予定です。1部の功労者感謝会により表彰を行い、2部で事例発表の2部構成となります。昨年度は鶴見中央地区の事例発表を行いました。今年度は令和8年3月20日（金・祝）に鶴見公会堂にて予定をしております。内容は今後事務局で作成し、次回1月推進委員会で審議いただきます。

目的案については5期計画のお披露目として、順調なスタートを切れるように事例を通してポイントをお伝えしたいと考えております。最終的には第2回推進委員会にてご承認をいただく予定です。

## (3) 第5期鶴見・あいねっと 区（全体）計画の素案について

（説明：事業企画担当係長）（資料5）

資料5（第5期鶴見・あいねっと素案）を基に次のとおり説明。

6月プロジェクトでいただいたご意見を反映させております。

また、地区別計画は9月末までに各地区で作成中のため、素案の時点では地区別計画の原稿を除いたものとなります。

ページ数は第4期計画では92ページでしたが、第5期計画では80ページ以内に収められる見込みとなっております。

全体の構成についてです。冊子をめくった最初のページですが、福祉になじみがない方にも構えることなくご覧いただけるように、はじめにあいねっとちゃんを紹介し、以降もあいねっとちゃんをスポーツマンとして全面に押し出しました。

【3、4ページ】コラムが読み手にとって興味深いのでコラムの目次を作成した方がよいとご意見をいただき、作成しました。5つのカテゴリーに分類し、目当てのコラムを探しやすいうようにしました。

【5、6ページ】鶴見区の特徴的なデータ、特徴的ではあるがデータがないものについて、あいねっとちゃんの吹き出しで伝えています。自転車事故が18区で最も多いことや、ボランティア関連のデータについても入れた方がよいとのご意見をいただき、追記しました。また、「18区中1位」等の順位を示している王冠マークの意味がわかりにくいというご意見を踏まえて記載しました。特に老人クラブ設置率が1位ではありますが、2位や3位の区と比べても突出しているというのがわかるように補記しました。

歴史にも触れるなど、この2ページについてはご意見を反映させました。

【7、8ページ】文章の大幅な修正はなく、他のページと合わせる形でイラストをあいねっとちゃんに変更しました。また、柱1だと「つながり」のように、柱の内容を端的に表した表現を補記しています。

【9から13ページ】（説明：区社協担当者）

柱1について「多様な人や団体が参加し、つながっている地域」

構成としては、冒頭に「めざす姿」を掲載した上で、それに続く形で「自分で・家族で」「今まで・地域で」という自助・共助の取組を掲載し、「区役所・区社協・地域ケアプラザ」のいわゆる公助の取組を掲載しています。また具体的な取組内容がわかるコラム

を掲載しています。

前回のあいねっと策定プロジェクトでいただいたご意見について、2点反映しています。1点目は自助、共助の部分の「自分で・家族で」や「なかまで・地域で」できる取組の提案で、プロジェクトの時点では「〇〇してみる」というような表現でしたが、「〇〇してみよう」という提案するような表現に変更しました。2点目は11ページの「新たな担い手をつなげる支援」について、「多様な担い手をつなげる支援をしていきます」という表現に変更しています。これは「新たな担い手」と書くと、少し責任が重いといった印象を受けるため、少しでもハードルを下げる表現の方がよいのではないかとの提案や、「若い方を想定したような表現だと思うがシニア世代もまだまだ元気だ」といったご意見も踏まえ、変更したものです。各ページのコラムについては、大きな変更はありません。ご意見があれば伺いたいと考えています。

#### 【14から22ページ】(説明:事業企画担当)

##### 柱2「困ったときにお互いに気づき、助けあえ、支援が届く地域」

柱2については、プロジェクトでいただいたご意見を受けて、主に15ページの表現をいくつか修正しています。まず、「自分で・家族で」の4行目のところで、当初は「助けられ上手を目指そう」という表現でしたが、「を目指すものではなく結果としてそうなるもの」という意見をいただきましたので、「助けられ上手になろう」という表現に修正しています。併せて、その下のあいねっとちゃんの吹き出しのセリフも、「を目指したいナ」から「なりたいな」という表現に直しています。

また、当初は「自分で・家族で」のところに、「困っている人がいたら声をかけよう」という記載がありましたが、「この表現は上下関係を感じさせる可能性があるため、より対等な関係を表すような記載が良い」とのご意見をいただきました。また、当日ご記入いただいたアンケートでも、「『困っている人の合図をキャッチしよう』という記載があると良い、というご意見をいただきましたので、「なかまで・地域で」の2行目以降に「日頃から声をかけ合い、お互いを気にかけて、困っている人の合図をキャッチしよう」という表現を入れました。さらに、続く一文は当初、「心配な変化があれば相談機関などにつなげて一緒に考えよう」でしたが、「相談機関と一緒に考えよう」というすっきりとした表現に修正しています。

なお、プロジェクトの際には埋まっていなかったコラムをご紹介すると、17ページ「認知症であってもなくても地域で自分らしく暮らし続けられるために」というタイトルで、認知症支援の取組を記載しています。

続いて、21ページの上段では、妊娠中から子育て期にかけての切れ目のない子育て支援ということで、両親教室の様子などをご紹介しています。

最後に22ページの上段では、生活困窮者支援について、家計相談とひきこもり支援について掲載しています。下の段の「性的少数者支援」と「犯罪被害者支援」に関しては、それぞれ、横浜市の所管課に確認した内容について記載しています。

## 【23から26ページ】(説明:事業企画担当)

### 柱3 「こころも体も健やかでいられる地域」

「自分で・家族で」「なままで・地域で」の取組項目、あいねっとちゃんのセリフについては、抽象的すぎるので、もっと身近な取組に変更出来るといいというご意見があり、具体的には「鶴見川を散歩する人が多い。川べりには花も多い。」というご提案がありました。変更点として、あいねっとちゃんのイラストに川沿いをイメージしたイラストを追加しました。そして、「きれいな景色を見ながらの散歩は気持ちがいいよ」というセリフに変更しています。

子どものころからの健康づくりのコラムについて、子どもたちが朝ごはんを食べるようみたい。それには、早寝・早起きをするとゆっくりと朝ごはんが食べられる。現状では、子どもも大人も夜遅くまで、スマホを見ている時間も長いので、デジタルデトックスをしないといけないのではというご意見を頂きました。変更点として、「子どもも大人も寝る前は、スマホはオフに」という呼びかけるようなセリフに変更しました。

居場所が育む大きなつながりのコラムについて、居場所でのあいねっとちゃんとそのセリフについて、「心を軽くする・大丈夫と伝えるようなセリフになるといい」というご意見を頂きました。それを受け、「きっとなんとかなるよ~」というセリフに変更しました。

ボランティア活動のコラムについて、シニアの力をもっと地域活動につなげたいというご意見を頂きましたので、よこはまシニアボランティアポイント事業についてご紹介するコラムを追加しました。また、以前のプロジェクトで出ていた意見から、あいねっとちゃんに「シニアパワー、100%！」というセリフを追加しました。

## 【27ページ】(説明:事業企画担当係長)

27ページの評価指標については、6月の策定検討プロジェクト時点から変更なく、定住の意向や地域活動への参加状況など、第4期計画を概ね踏襲した6つにしています。

本ページのコラムでは、地域の方々には指標を意識して活動していくことよりも、指標はあくまで「みちしるべ」であり、それに向かって進んでいく過程で、話し合い・協力する機会を持つことが大事であることなどを伝える内容になっています。

## 【28ページ】(説明:区社協担当)

### 市計画、区計画、地区別計画の関係について

28ページには市計画、区計画、地区別計画の関係を示しています。本関係図は第4期計画でも掲載していたものです。横浜市の地域福祉保健計画は「市計画」「区全体計画」「地区別計画」の3層構造が特徴となっており、この3層構造があることにより、身近な地域の課題まで細かく対応することが可能になっています。

なお、区計画は市計画の理念を踏まえて策定をするため、市計画から2年遅れて策定することになっております。

以前は策定期間が2年違うことを図でお示していましたが、区計画の経過として文章でも記載しているため、図は割愛させていただいています。なお、第4期計画から第5期計画の経過については67ページに記載しています。

## 【29、30 ページ】(説明 : 区社協担当)

地区別計画の導入の部分です。

地区別計画は概ね連合町内会を単位とし、各地区の状況に合わせた様々な方法で話し合いを重ねながら、区計画と同じく5年ごとに計画を策定しています。

地区別計画の説明ページについて、29 ページに鶴見区の地図を掲載しました。現段階ではイメージ図ですが、区内の名所などの特徴的なイラストを盛り込み、18 地区の位置もわかるような地図にしたいと考えています。

30 ページの上段について、前回のプロジェクトではこの地区別計画の構成（ページの見方）を掲載していましたが、プロジェクトで「地区別計画の構成は見ればわかるため、なくても良いのでは。4期計画の概要版に記載のあった、各地区のキャッチフレーズはわかりやすいので載せてはどうか」とご意見をいただき、キャッチフレーズの掲載に変更しました。現在、各地区で地区別計画を作成中ですので、現時点ではイメージとして第4期計画の各地区的キャッチフレーズを掲載しています。

その他、全体の文字量が増えたため、あいねっとちゃんの吹き出しやコラムの内容を少し見直し、文字量を減らす形で修正しています。

## 【67、68 ページ】(説明 : 区社協担当者)

第4期計画の振り返り・第5期計画に向けて

67 ページには第4期計画の振り返りとして、推進委員会や策定検討プロジェクト等でいただいたご意見をまとめた内容を記載しています。 68 ページは振り返りを受けて、第5期計画に向けて大切にしたいことをまとめています。

色分けを行っているのが前回のプロジェクトからの変更点となります。

## 【69から 72 ページ】(説明 : 区社協事務局次長)

69 から 71 ページは推進委員会、策定検討プロジェクトメンバーの団体・活動紹介のページとなっています。72 ページは委員のみなさま、プロジェクトメンバーの名簿を掲載しています。修正点がないかどうか確認をお願いいたします。

## 【73、74 ページ】(説明 : 事業企画担当係長)

区民アンケート調査結果

73 から 74 ページは昨年 12 月の策定検討プロジェクトで説明させていただいた、区民アンケート調査の結果を 2 ページにまとめたものです。

「日頃、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか？」のグラフを、「どの程度の付き合いを望みますか？」のグラフと比べたものです。一概に比べられるものではありませんが、総体として、「今よりもう少しつながりたい」とも受け取れる結果が出ていますので、それをあいねっとちゃんのセリフとして記載しています。

「活動に参加したきっかけ」については、「自治会・町内会の誘い」と、「友人・知人の誘い」など、まさに皆さまが普段やっているような、地道な声掛けが参加につながっているということを記載しています。

次のページでは、「地域がもっと住みやすくなるために、どのようなことが今後充実すると良いと思うか？」という問い合わせに対して、回答は様々ですが、柱 1 から 3 をそれぞれ表している「つながり」「助け合い」「健やか」が大切だと結論付けています。

最後に、「地域の中であつたらいいなと思う交流の場は何ですか？」については、いろい

ろな集いの場所があるとよいことを記載しています。

【75 ページ】（説明：区社協事務局次長）

関係機関一覧として、区内の地域ケアプラザ、鶴見区役所の他、鶴見区社会福祉協議会や鶴見区基幹相談支援センター等の福祉保健関係施設の連絡先を掲載し、相談したい内容によって相談先がわかるようにしています。

（4）区民意見募集について（説明：事業企画担当係長）

最後の2ページについては、実際の第5期鶴見・あいねっと素案の最後のページに添付している区民意見募集の告知を掲載しています。「意見の募集方法」に記載のとおり、郵送、FAX、電子メール及び電子申請フォームといった方法でご意見をいただけます。実際に素案を印刷するにあたっては、このページについては厚めの紙を用いますので、切り取つてそのまま郵便はがきとしてご活用いただけます。

意見募集については、鶴見区のホームページにて10月20日（月）に公表し、ご意見について11月20日（木）までの約1か月間受け付けます。

告知については、ホームページ上で公表するのと同じ10月20日に開催する区連会での説明を皮切りに、10月22日（水）の民生委員・児童委員協議会の地区会長連絡会でも説明いたします。また、区ホームページ上で公表するのはもちろん、広報よこはま鶴見区版の11月号でも周知する予定です。委員の皆さまの団体を中心として、関係機関や団体にも紙資料で発送させていただきます。

（5）その他

（八森副委員長）素案について審議を兼ねて、委員よりご意見を伺いたいと思います。

「第5期の計画をスタートするにあたって自分たちの団体でこんなこともできる」等を含めてお話をいただきたいです。

祝出委員：子育て中の方に直接話を伺いながら活動しています。子育て中の家庭は毎日忙しく、区民意見募集に直接触れることがないが、そういった方からの意見こそ聞きたいと感じます。わっくんひろばの利用者に意見募集について告知し、意見をいただけるような場を設けていきたいと考えています。

押山委員：今回、原稿が見やすくなっていると感じました。区民意見募集では、答えやすくなるように、例えば、回答の際に選択肢を用意するなどの対応は可能でしょうか。文章を書く時間もなかなか取れないという方もいるので、皆さんのお意見を聞いてまとめるなどについて考えていきたいです。

八森副委員長：いくつかのポイント・意見を取り上げて、まとめていかれるというのはどうでしょうか。

平森委員：中学生があいねっとの活動でどのようにできるかは難しいが、どのセクションでも次世代の担い手が中学生かと思います。積極的に地域行事に参加する学校も多いです。地域とのコミュニケーションを取りつつ、取り組んでいたらよいと感じました。いずれ、高校、大学進学、さらに就職した後、いずれ鶴見区に帰っていた際に、このような活動に参加できたらよいと思っています。学習支援として、居場所支援、学習支援があると助かる家庭も多いので、地域で広がっていくとよいと思います。

小林（広）委員：15から16ページ。いろいろな人と交流しあいの理解を深めていくう、多文化共生の意識づくりを進め、さらに担い手になってほしいと日々取り組んでおります。外国の方、特に子育て中のお母さんが孤独になっているケースが多いです。保育園に入りたいがどう準備したらよいか、言葉、文化の問題で壁がある、誰に相談したらいいか。挨拶もしない。知らない人ばかり、壁を感じながら生活している人も多いように思います。ラウンジに相談に来られる方も多いです。

困った時に声をかけるというのは、日本人にとっても外国人にとっても重要なことだと感じます。外国の方だから英語で話しかけないといけないということではなく、「ここにちは」と声をかけることも大事なことと感じます。

最後の区民意見募集の部分は外国にルーツのある方も意見が言えるようなツールはあるか、やさしい日本語や多言語はあるかお聞きしたいです。

事務局：ご意見ありがとうございます。ご意見を受け、検討させていただきます。

芦沢委員：今回初めて参加となります。以前の冊子よりも見やすくなったように思います。あいねっとちゃんの活躍がすごく、明るくなったように感じます。保健活動推進員は高齢者と子どもの支援をしています。悩みの種は子育て支援です。働くお母さんが多くなり、対応する子どもの年齢がとても低くなっています。次回は子育て支援についても取り上げてもらえたらいと感じます。また、区民意見募集のはがきに、書きやすくする工夫があるとよいなと思います。

福井委員：資料の訂正をお願いしたいです。素案のP72と推進委員会資料の資料2を「鶴見区精神障害者家族会のぞみ」に統一をお願いしたいです。また、「二次元コード」と「QRコード」があるので、統一をしてほしいと思います。P25「心の健康づくり、誰もが集い学び～」について、理想としてはよいが、具体策をよく検討してほしいです。さらに、P13「子どもの居場所を行う」について「子どもの居場所」という名称の行事であればこの表現でよいが、違うのであればわかりやすい表現に変更をお願いしたいです。

八森副委員長：語句の統一、子どもの居場所は活動名なのでしょうか。整理した上で、検討してほしいと思います。

清水委員：介護者の会おりづる会は2000年11月開始しました。この11月で25周年となります。「おりづる」という名前は、鶴見区のつるから。一羽一羽のつるから千羽鶴のようにという意味を込めて名付けた。自宅介護の悩みに寄り添いながら、それを会の皆で共有しながらどうしたら解決できるのか考えています。地域で様々なサロンやカフェに参加し、おりづる会で得た知恵等を共有し、また知恵もいただき、活動しています。昨日も区役所で虐待防止の会議があり、市

場のいきいきカフェ講座に参加しました。いろいろな交流を重ねながら推進をしています。

P21に介護に関する課題、ヤングケアラー、ダブルケアラー、などについてあいねっとちゃんの吹き出し「人によって、悩みや困りごとはさまざまだね。」がまさにその通りだと感じました。横のつながりによって情報共有し、つながって頑張っていきたいです。

松坂委員：事前資料が配られたが、PDFだと中身が開けず読めなかつたです。そのあと概要だけ送ってもらったが、全体的にまだわかっていないので意見を出せません。PDFファイルが一般的に使われているが、テキストがないと読めないです。写真を掲載する場合は内容がわかるテキストを付け加えてもらうと視覚障害者でもわかるのでいいと思います。

日向委員：全体的に見やすくなっています。P6に老人クラブについて掲載してもらいました。会員数を維持できるよう頑張っていきたいです。P17に認知症センターについて記載があります。18区老連のうち鶴見区だけがキャラバンメイトを受け、独自で講座をしています。また、P12のサロンは自分のところのマンションで、役員として関わっているので、さらに力を入れていきたいです。

石井委員：P6にボランティアを入れていただきました。P71に記載があるように35団体で活動しています。フォーラムでは例年、パネル展示をしています。自分たちの活動を理解してほしいという思いは強いですが、このあいねっとに関わるようになり、いろいろな年代が関わっていること、区をあげて開催されることに、ボランティア分科会としてもパネル展示だけでなく、一般の参加者も来てほしいと感じます。一般の方は参加しにくいという印象があります。

例年、あいねっと推進フォーラムは土曜日の実施ですが、今年度は3月20日の金曜日となり、広報の配布時期が各自治会・町内会で様々なので、3月に配布しても届かない場合があります。区民アンケートで、活動のきっかけも回覧・掲示板が多いこともあります。民生委員や自治会の役員でなくても、いろいろな人が気軽に参加できることを発信してほしいと思います。周知については早く行うなど、丁寧に進めてほしいと思います。

八森副委員長：広く区民の方に周知、広報の時期も検討してほしいと思います。

宮野委員：それぞれの立場のご意見を聞かせていただきました。今は年代が10年違うとそれぞれ育ち、社会情勢、環境も違います。すべての世代に光を当て、網羅するのはなかなか難しいです。どこから手を付けていいかわからない気がするので、高齢者から赤ちゃんまで、すべての皆さんと通じあえるようにできればよいと感じます。

小林委員：民児協は3年に1回の改選期となります。定数が主任児童委員を入れて339名となり、市内一番の充足率となっています。ただ、75歳定年の方が約3割ほどとなり、鶴見区以外にも全市的に後継者不足となっております。担い手に関しては、若干苦戦をしています。

民生委員としては柱1から3に網羅されている、身近な地域の相談役として、住民の立場になって、ソフトな見守りから寄り添い、専門機関につなげるという使命があります。地域のコミュニティのつながりを大切にしていきたいと感じています。素案に関しては、必要事項がほとんど

網羅されていると感じました。

板山委員：4ページのコラムの目次をつけてもらい、見やすくなったと感じます。手に取った方も全部を隅々まで見るのは難しいので、興味のあることや知りたいことに飛べるように、一人でも多くの方に見ていただけるようになると良いと感じています。地域ケアプラザは様々なところとお付き合いをするので、意見募集について、冊子の配架のみでなく、見たくても見れない方、地域ケアプラザまで来れない方など、どうやって届けるか考える必要があると感じています。

ケアプラザにも例えば「ペットボトルのふたを開けてほしい」と毎日のように来られる方がいますが、そのようにちょっとしたことでも難しいという方もいます。はがき一つとっても内容、書き方が分からぬとか難しいと感じる方もいます。ケアプラザでも寄り添った対応を考えていきたいです。

八森副委員長：わかりやすい、見やすい、あいねっとちゃんがわかりやすいという意見があつてよいと思います。視覚障害の方に計画の内容がわかる方法であつたり、精神障害についてまだ偏見があるとのご意見もありましたが、具体的に一歩踏み込んだ内容やコメントがあるといいという意見もありました。語句の統一も事務局でしっかり確認をお願いしたいと思います。現時点ではデザインがまだ入っていないので、いずれフォントを統一するなどバージョンアップしたものになっていくと思います。確認事項もありご意見をいただいたが、大方この内容で皆さまのご了承をいただきたいと思います。本日話足りなかつたことはアンケートに記載いただき、今後反映を検討していくことになるかと思います。

#### （6）その他

小林（広）委員：8月30日（土）13：30～サルビアホール3階ギャラリーにて、日本語スピーチ（学習の成果を披露する場）イベントがあります。お時間あればぜひお越しいただきたいです。

### 7 閉会

小林委員長：熱心なご討議ありがとうございました。八森先生、スムーズな進行ありがとうございました。各団体に持ち帰り、それぞれの分野においてより一層の連携につなげていきたいと思います。

以上